



行って、見て、感じて、考える
第8回SGRAふくしまスタディツアー参加者募集

関口グローバル研究会（SGRA）では2012年から毎年、福島第一原発事故の被災地である福島県飯舘（いいたて）村でのスタディツアーを行ってきました。そして、スタディツアーでの体験や考察をもとにしてAFCワークショップ、SGRAフォーラム、SGRAカフェなど、さまざまな催しを展開してきました。

2017年に7年間の避難生活が解除され、住民も徐々に「ふるさと」に帰り始めていますが、昔のままの生活を取り戻すことはできません。飯舘村の住民たちは、新しいふるさと作りに向けて進み始めています。今回のツアーでは、新しいふるさとづくりのシンボルとしての「佐須の地域再生可能エネルギー事業」と北川フラム氏を中心に計画されている「飯舘村アートプロジェクト」に焦点を当てて、新しいふるさとづくりのビジョンと計画を共に考えます。

《「ふるさと」の再生》

日程：2019年9月21日（土）、22日（日）、23日（祝）

人数： 10～15人程度

宿泊： ふくしま再生の会体験宿泊施設 風と土の家

参加費： 奨学生、元奨学生（ラクーンメンバー）は参加費無料
（一般参加者は新幹線往復料金＋1万2千円）

申込み締切： 9月10日

申込み・問合せ： 渥美財団 SGRA事務局 角田

E-mail： tsunodaaisf@gmail.com Tel： 03-3943-7612

【プログラム】

（プログラムは当日の天候などを見ながら進めます）

第1日目 9月21日（土）

朝：午前9時頃 東京⇒福島（新幹線）福島⇒飯舘村

午後：飯舘村内の視察・見学 「ふくしま再生の会」説明

第2日目 9月22日（日）

午前：飯舘村内の視察・見学

新しい村づくりプロジェクトの見学：佐須の地域再生可能エネルギー（太陽光発電）

プロジェクト、飯舘村アートプロジェクトの構想

午後：農業体験（飯舘村、再生の会の方々との協働作業）

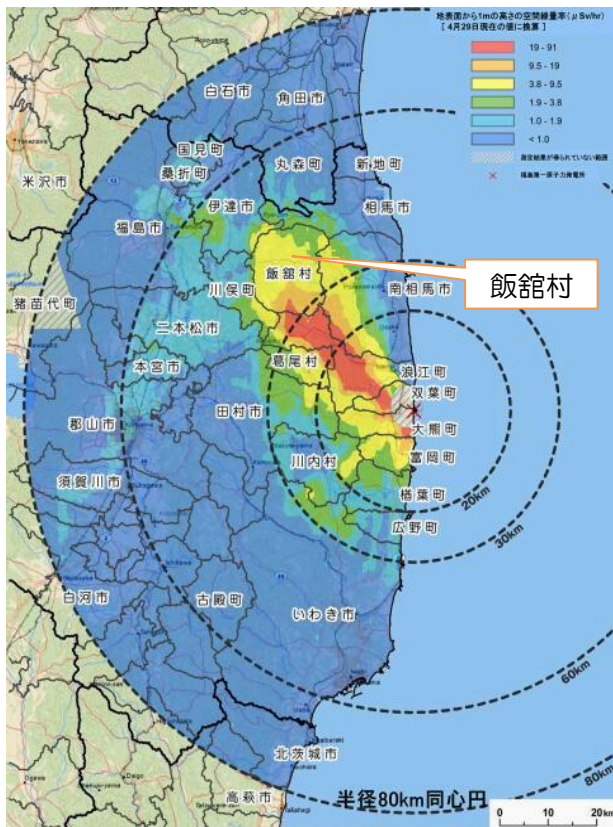
夜：「ふくしま再生の会」、地域住民との懇親会

第3日目 9月23日（祝）

午前：ふりかえり

午後：午後2時頃 飯舘⇒福島、福島⇒東京（新幹線）

★夕食は自炊します！お料理自慢の方、自分の国の料理を作りたい方、大歓迎です！！



文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果

《飯舘(いいたて)村とは》

東京から北に約300Km

福島第一原発から北西に約30~40Km

人口：???人(原発事故前は約6,500人)

面積：230Km²(東京の山手線内の3.5倍)

主な産業：(原発事故前は酪農、農業、林業など)

飯舘村は75%が森林に囲まれ「日本の美しい村100選」にも選ばれた村でした。

《飯舘村の放射能被害》

- ❑ 東日本大震災による福島第一原発事故が発生したのは2011年3月11日。この時点では飯舘村には深刻な被害はありませんでした。
- ❑ しかし、3月14日福島第一原発が水蒸気爆発をおこし大気中に放射能汚染物質(radioactive pollutant)がまき散らされました。放射能汚染物質が風に乗って飯舘村の上空にきた時、雨や雪が降り、雨や雪に付着した放射能汚染物質が飯舘村に降り注いだのです。
- ❑ そして2011年5月に政府から突然に全村民の避難指示が出され、避難生活が始まりました。
- ❑ それから、8年が経過したのです。

【飯舘村の現状と課題】

- ❑ 膨大な資金を投入して行われた家屋や農地の除染(decontamination)事業により放射線量も徐々に下がり、飯舘村に対する「避難指示」は、2017年3月31日に解除されました。
- ❑ 7年間各地に避難していた住民が、「ふるさと」に帰り始めています。「ふるさと」に帰る住民のほとんどはご老人です。そして、帰還したとしても、昔ながらの美しかった「ふるさと」は、もうそこにはありません。汚染され、放棄されてしまった土地では、以前と同様の酪農や農業林業を営んで行くことはできません。
- ❑ こうした困難な状況にも関わらず、地域の文化、伝統を継承しながらの「新しいふるさとづくり」、50年先を考えた、地域づくりのチャレンジが始まろうとしています。

【ふくしま再生の会とは】

- ❑ 今回のスタディツアーの受入団体である「ふくしま再生の会」は、飯舘村の住民、都市からのボランティア、大学等の研究者/学識者の3グループの協働を原則として、地域再生のためのボランティア活動を行っている認定NPO法人です。
- ❑ ふくしま再生の会の活動については下記のURLをご覧ください。
<http://www.fukushima-saisei.jp/>

ツアーの安全性について：

1. 視察地、活動地の放射線濃度は、安全基準値を大きく下回っていますので、活動は全く安全です。
2. ツアーには放射能問題の専門家が同行し、放射線量が高いと思われる場所での活動は行いません。
3. 一人一人が放射線測定器を持ち、自分で計測し、ポイントごとに安全を確認しながら行動します。